

栃木労働局による「働き方改革」企業トップへの働きかけ

(室長編)



鴻池メディカル株式会社

栃木営業所（栃木滅菌センター）



平成 29 年 2 月 15 日、鴻池メディカル株式会社の東日本事業部次長（兼 栃木営業所長）である渡部邦彦 氏を訪問、「働き方改革」についての協力要請及び取り組み内容についての意見交換を行い、更なる取り組みへの推進をお願いしました。今回の要請では栃木県幹部も同行しました。



渡部所長



栃木労働局 雇用環境・均等室 吉永室長

【鴻池メディカル株式会社】

本 社 東京都千代田区有楽町 1 - 6 - 4 千代田ビル 4 階
(栃木営業所：栃木滅菌センター 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 6 2 - 3)

創 業 2000 年 4 月

代 表 者 代表取締役社長 浅田 秀樹

労働者数 1,939 名（栃木営業所 70 名）

事業内容 滅菌代行業務、院内物流請負業務、院外物流システムの設計と運用サービス、
物品管理システムの開発・販売、医学資料保管サービス、病院内環境整備業務

公式HP <http://www.konoike-medical.co.jp/index.html>



渡部所長（左手前）に、「働き方改革」の要請を行う、栃木労働局雇用環境・均等室吉永室長（右手前）、栃木労働局雇用環境・均等室落合室長補佐（右奥）、栃木県産業労働観光部労働政策課篠崎課長補佐（正面奥）。

（撮影 栃木労働局 野中）

◆対談内容

※最初に渡部所長より、会社概要の説明を頂く。鴻池運輸株式会社を母体とし、医療分野へ業務展開して、医療機関を対象に医療器具等の洗浄・滅菌代行業務を中心に事業展開している。渡部氏は赴任8年間の中で、色々な労務管理改善に着手し、医療機関の間では、自施設の改善効果だけでなく、鴻池メディカル自体の積極的な職場環境改善の噂が聞かれるようになってきている。

この数年の医療機関における医師や看護師等の「働き方改革」の影響で、外部委託業務としてのポジショニングを確保してきた。コスト削減や、看護師等の業務負担削減に留まらず、患者に対し安全を保証するスタンスが医療機関に認められてきている。

【吉永室長】

貴社のような業務は、他社にもあるのでしょうか。（同業他社）また、このような業務委託を依頼する病院の比率はどのくらいなのでしょう。

【渡部所長】

自社を含めて大手3社が全国で展開しております。主に300床以上の病院や1000床

以上の大学病院を対象としております。東京都内では約 80%、全国では 30%程度の病院が委託されています。自社の場合の契約医療機関数は、全国で 1041 施設となっています。

最近では、病院以外からの受託も増えてきており、クリニックや消防署（救急）、そして学校健診器材の洗浄滅菌業務を各団体から依頼されております。

【吉永室長】

医療分野の課題である、看護職等の労働負担低減に対する、まさしくサポートとなっていますね。「働き方改革」の一翼を担っているとも言えます。

【栃木県：篠崎労働政策課 課長補佐】

従業員の皆さんの勤務先は各病院になるのでしょうか。

【渡部所長】

各病院内常駐で、病院器材を使用して作業するメンバーと、院内作業が出来ず、滅菌センターへ配送されて処置する場合のセンターメンバーがいます。従業員 70 名中の約 60 名が院内常駐要員です。病院規模にもよりますが、3 名～10 名でチームを組みシフト勤務をしています。

【吉永室長】

赴任されてからご苦労もあったかと思いますが、どのように改善を図られてきたのかをお聞かせ願えますか。

【渡部所長】

責任者会議が機能しておらず、現場の問題も共有化出来ず、受注された業務だけを納期に間に合わせて作業するだけの実態でした。最初の頃は、私からの上位通達形式の会議で基礎固めを行いました。3 年ほど前からは受注先の病院側で、ワークライフバランスの取り組みが盛んに行われているのを見て勉強をしていきました。トップダウンだけの限界を感じていたため、会議を「責任者どうしの話し合いの場」に変えました。目指すは「自分たちで考える会議」としました。

時には私も席を外して、現場どうしの気付きにしてもらい、明日、明後日の結果に繋げる話し合いをしてもらいました。すると思っていた以上に私自身が「部下の強み」を知ることができたという副産物も生まれました。

【吉永室長】

自分たちで考える集団に変化してきたということですね。トップダウンとボトムアップの両輪がうまく回り出したのですね。日々の地道な努力の賜物なのでしょう。

責任者の話し合いは、現場の従業員の考えも反映されているのでしょうか。また従業員を巻き込んでいく工夫はどのようなことをされているのですか。

【渡部所長】

会議で自部署の話し合いをする為には、現場の意見をよく聞いてこなければ他の責任者から突っ込まれますし、いい加減な思い付きの発言は責任者どうしですのですぐわかります。その為に部下とのコミュニケーションは、やはり多くなったようです。

周知の方法としては、「会議新聞」を会議ごと発行し、現場へ流しています。また鴻池グループ全体でも実施していることですが、「改善提案制度」を採用しています。ただ、改善提案制度も、やりっぱなしはダメで、フィードバックが重要と考えています。「評価」と「見える化」が必要なので、最大5000円のクオカードが進呈される制度となっています。

全国の従業員中、社員3割、パートスタッフ7割で、そのパートさんの8割が主婦層を中心とした女性です。病院やセンターにおける洗浄滅菌作業は、いわゆる5S作業（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）そのものですので、「主婦の知恵」「主婦の発想」には素晴らしいものがあります。



鴻池グループから表彰を受けた「会議新聞」

【吉永室長】

まさしく女性活躍推進になっていますね。ただ、病院業務では、急な手術などで滅菌業務にも時間外労働が発生する事はないのでしょうか。パートさんたちは、時間外が発生すると困るのではないですか。

【渡部所長】

時間外労働は基本的に発生しない仕組みとしています。急な欠員発生時のみです。どういう事かということ、通常業務は時間内で終了するようにしており、急な手術等

の対応で、手術室の清掃・器具の洗浄が残ってしまった場合は、病院スタッフで行う契約になっているからです。

元々、看護業務の一環として行われていた作業を受託して、医療現場の効率をあげる支援作業でしたので、病院サイドでも行えるわけです。

ただ、昔はやはり受託側の弱みもあり、現場判断で引き受けていた時代もありましたが、現在は「業務の品質」をあげることで、契約取り交わし時に明確にしてあります。もし時間外勤務を希望される場合は、別割増額契約となるので、コスト削減を目指している病院経営者側には了解して頂いています。

【吉永室長】

「働きやすい職場づくり」を会社側が、しっかりガードしてくれているので、主婦の方たちも働きやすいですね。

【渡部所長】

他には、所定休日を7年かけて、105日から120日まで引き上げました。これも現場の業務効率向上がなければできないことでした。

また、各現場に対する巡視（取り組みのチェック）もエリアマネージャーによって実施しております。

更に、鴻池メディカルが中心となって、栃木県内の「滅菌業務研究会」（9社）を立ち上げることになっており、この業界の発展に貢献していきたいと思えます。

【栃木県：篠崎労働政策課 課長補佐】

県からは、「いい仕事いい家庭つぎつぎとちぎ宣言」、「えるぼし」、「女性活躍応援団」、「イクメンイクボス」についてご紹介させていただきます。（資料提供）

また、WLB推進好事例ブックに参加して頂くこともご考慮ください。

【吉永室長】

今日はお忙しい中、貴重なお時間を頂きありがとうございました。